

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
科目名	「人間と文学」				担当者名	宮田 篤			
授業の概要	<p>[概要] 山本周五郎（1903～1967；昭和36～42）の「赤ひげ診療譚」（1958～59）を講読します。小説は八つの章から成り立っていますが、授業で講読するのは下記の5章です。 「狂女の話」「むじな長屋」「徒労に賭ける」「鶯（うぐいす）ばか」「氷の下の芽」 『赤ひげ診療譚』の文章や山本周五郎の文体そのものは難解なものではありません。また、養生所という場で交わされる台詞から垣間見ることのできる人生哲学も、現代の私たちが平易に共感できるものです。ただし、作品の舞台が享保年間（1716～1735）に実在した小石川養生所であるため、当時の身分制度、江戸時代の生活様式や人々の考え方、地理・地名などについての補足が必要となります。授業ではその解説も行います。また、朗読を聴き、時に音読を併用します。単なる黙読ではなく「物語る」表現の原点を追究します。</p> <p>[主題] 授業の主題は「私と文学」です。この授業では「文学」を「自分学」と位置づけます。通常問われるような「作者の言わんとするところ」はさほど重要ではありません。そうではなく、「なぜ、自分は『作者はこのように言おうとしている』と判断するのか、そのように判断する自分は何者なのか」を自らに問うことが重要だと考えます。</p> <p>[目的] 授業の目的は「自分自身の発見」です。読書が単なる受身の行為でなく、読者の自発的な「創造行為」であることに気づいてもらいたいです。作品を読んで見えてくるものは本来すべて、自分自身の中にあるものです。したがって、同じ本を読んでも読者の中に形作られる世界は読んだ人によってすべて違ったものになります。この創造行為は、「そのように作品をとらえる“自分”を発見すること」でもあります。</p>								
科目の到達目標	<p>[枠組みとしての到達目標] 「人間と文学」では、受講者の皆さんが読書によってとらえた自分と世界を「どのように表現できるか」という点を評価の対象とし、そのために必要な下記の項目を到達目標とします。 1. 山本周五郎の文章表現・日本語感覚に対する自分の理解を、自分の言葉で表現できる 2. 文学作品を創作する初歩的な技法・感性を解析し、理解した結果を自分の言葉で表現できる 3. 作品鑑賞に喜びを見出し、継続し、礼儀をわきまえつつ他者に伝承することができる</p> <p>[具体的項目としての到達目標] 具体的に「できるようになったこと」を掲げ、最終15コマ目の授業で到達度を自己点検します Ⅰ. 山本周五郎という作家について理解したことを説明することができる 1. 山本周五郎の生涯と作家活動について 2. 山本周五郎が創作した作品世界の特徴について 3. 山本周五郎の文章表現・描写の特徴について Ⅱ. 『赤ひげ診療譚』という作品について理解したことを説明することができる 4. 小石川養生所の歴史と役割について 5. 江戸の医療環境・医師制度の概要について 6. 享保年間（1716～1735）という時代と生活について 7. 新出去定という人物について 8. 保本登という人物について 9. 森半太夫という人物について 10. ちぐさ、まさをという人物について</p>								
授業時間外活動									
フィードバックの方法									
単位認定の要件	90点～100点 S 85～89点 A+ 80～84点 A 75～79点 B+ 70～74点 B 65～69点 C+ 60～64点 C 59点以下 D(不合格)								
評価の方法・割合(%)	30% 受講課題1 [F1～6] Formsまたは課題による課題・意見作成 20% 受講課題2 [GW1～2] グループワークまたはペアワークでのふり返り・意見作成 40% 期末レポート作成・提出 10% 自己成長分析 [J] 自己点検・分析シート作成								
	受講に関する補足]								

履修上の注意事項	<p>◆下記のような行動を固く禁じます</p> <p>* 授業中に無断で欠課・遅刻・途中入室・退室をする</p> <p>* 他の受講者への迷惑行為、授業進行を妨げるなど、一般常識・生活常識・倫理観の無い方の受講行為（私語・いびき・徘徊等）を固く禁じます。</p> <p>—Only available in Japanese—</p>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/26		オリエンテーション；作家・山本周五郎に関する理解 予習：30分 山本周五郎について調べたことをノートに書き出す 復習：30分 授業での理解をふまえノートを補完，説明できるようにしておく	
2	10/3		作家・作品『赤ひげ診療譚』に関する理解 予習：30分 享保年間がどのような時代であったかについて調べたことをノートに書き出す 復習：30分 授業での理解をふまえノートを補完，説明できるようにしておく	
3	10/10		P.9～「狂女の話」を読む① 人物，あらすじ，描写の特徴 予習：30分 「狂女の話」を読み，不明点をノートに書き出す 復習：30分 登場人物について理解したことを説明できるようにしておく	
4	10/17		P.9～「狂女の話」を読む② 登の境遇とおゆみの狂気 予習：30分 「狂女の話」で気に入った文章・描写・台詞をノートに書き出す 復習：30分 養生所の住環境・療養環境について理解したことを説明できるようにしておく	
5	10/24		P.86～「むじな長屋」を読む① 人物，あらすじ，描写の特徴 予習：30分 「むじな長屋」を読み，不明点をノートに書き出す 復習：30分 登場人物について理解したことを説明できるようにしておく	
6	10/31		P.86～「むじな長屋」を読む② 取り返しのつかない過去と贖罪 予習：30分 「むじな長屋」で気に入った文章・描写・台詞をノートに書き出す 復習：30分 佐八とおなかそれぞれの贖罪について理解したことを説明できるようにしておく	
7	11/7		P.174～「徒勞に賭ける」を読む① 人物，あらすじ，描写の特徴 予習：30分 「徒勞に賭ける」を読み，不明点をノートに書き出す 復習：30分 登場人物について理解したことを説明できるようにしておく	
8	11/14		P.174～「徒勞に賭ける」を読む② 赤ひげの過去と新たな言動 予習：30分 「徒勞に賭ける」で気に入った文章・描写・台詞をノートに書き出す 復習：30分 赤ひげの台詞に表れる人生訓について理解したことを説明できるようにしておく	
9	11/21		意見交換◆『赤ひげ診療譚』をふり返る（その1）[GW1] 予習：30分 主要人物の台詞と心情・行動をふり返っておく 復習：30分 意見交換をふまえ，魅力的な言葉や行動についてForms入力す	
10	11/28		P.207～「鶯ばか」を読む① 人物，あらすじ，描写の特徴 予習：30分 「鶯ばか」を読み，不明点をノートに書き出す 復習：30分 登場人物について理解したことを説明できるようにしておく	
11	12/5		P.207～「鶯ばか」を読む② 物語の伏線とその回収について 予習：30分 「鶯ばか」で気に入った文章・描写・台詞をノートに書き出す 復習：30分 おふみの台詞の真意について理解したことを説明できるようにしておく	
12	12/12		P.290～「氷の下の芽」を読む① 人物，あらすじ，描写の特徴 予習：30分 「氷の下の芽」を読み，不明点をノートに書き出す 復習：30分 登場人物について理解したことを説明できるようにしておく	
13	12/19		P.290～「氷の下の芽」を読む② 登の決心，おえいの決心 予習：30分 「氷の下の芽」を読み，不明箇所をノートに書き出しておく 復習：15分 登の医者に対する心境の変化について理解したことを説明できるようにしておく	

14	1/9	意見交換◆『赤ひげ診療譚』をふり返る(その2) [GW2] 予習: 30分 主要人物の台詞と心情・行動をふり返っておく 復習: 30分 意見交換をふまえ、人物の初見時と現時点との理解の違いについてForms入力する	
15	1/23	「人間と文学」受講全体のふり返り; 自己点検・分析シート作成 予習: 30分 自己点検・分析の10項目や各回の資料をふり返っておく 復習: 30分 自己分析点・成長点をノートに記録する	
期末試験			

使用テキスト	山本周五郎:赤ひげ診療譚・おたふく物語(山本周五郎長編小説全集第七巻)(2013), 新潮社 新潮文庫(編):文豪ナビ 山本周五郎(2005), 新潮社 Teams[2024_後期_人間と文学]内[クラスの資料]
参考文献 参考URL	山本周五郎作品館 <a href="http://yamashukan.la.cocacn.jp/">http://yamashukan.la.cocacn.jp/</a> 小石川植物園 <a href="https://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/koishikawa/">https://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/koishikawa/</a> (その他, 参照する文献・WEB情報等は授業内で適宜紹介します)
備考	

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「情報技術の仕組みと活用」	担当者名	本間 維
授業の概要	<p>この科目の目的は、現代の情報流通を支える基礎的な技術について、その技術の仕組みや社会での応用について理解し説明できるようになることです。</p> <p>この科目では、情報をコンピュータ上で表現するための基礎的な技術、データベースやネットワークの仕組みなどを解説します。また、情報技術を積極的に取り入れてきた図書館を事例の一つとして、情報技術がどのような目的で利用されるのか、利用する上で留意すべき点などと併せて解説します。</p> <p>科目の内容は、情報処理技術者試験のひとつである「ITパスポート試験」のうち、テクノロジー系の内容にある程度準拠しつつ、司書科目として必要な要素を追加したものです。</p>		
科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二進数を用いた情報表現の方法について文章で説明できる</li> <li>2. コンピュータやシステムを構成する各要素の名称や役割について文章で説明できる</li> <li>3. 情報デザインにおいて配慮すべき点を挙げる</li> <li>4. データベースの構造とデータベース管理システムの機能を文章で説明できる</li> <li>5. コンピュータネットワークを構成する各種の規格・規約について、簡易な文で説明できる</li> <li>6. 情報セキュリティ侵害を防ぐための物理的・人的・技術的な対策を挙げて、簡易な文で説明できる</li> </ol>		
授業時間外活動	<p>復習</p> <p>第2回： 10進数と2進数とを相互に変換する方法をノートにまとめる / ビット・バイト等の単位変換の方法をノートにまとめる (60分)</p> <p>第3回： コンピュータを構成する部品の名前と役割をノートにまとめる (60分)</p> <p>第4回： システム構成の種類と特徴をノートにまとめる (60分)</p> <p>第5回： ソフトウェアの種類と役割の違いについてノートにまとめる (60分)</p> <p>第6回： 確認テスト1で正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す (60分)</p> <p>第7回： よりよいユーザインタフェースに求められる各種の要件と具体的な実装例をノートにまとめる (60分)</p> <p>第8回： 二進数を用いた画像・音声・動画の表現方法についてノートにまとめる (60分)</p> <p>第9回： データベース管理システムの機能をノートにまとめる (60分)</p> <p>第10回： 確認テスト2で正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す (60分)</p> <p>第11回： 自身が日常的に利用しているネットワーク環境について、授業で扱った用語を用いて説明できるようにノートにまとめる (60分)</p> <p>第12回： 通信プロトコルの名前と役割をノートにまとめる / 通信プロトコルが細かく分割されている理由をノートにまとめる (90分)</p> <p>第13回： 情報セキュリティ侵害を防ぐための、物理的・人的セキュリティ対策のねらいと方法をノートにまとめる (60分)</p> <p>第14回： 情報セキュリティ侵害を防ぐための、技術的セキュリティ対策のねらいと方法をノートにまとめる (60分)</p> <p>第15回： 確認テスト3で正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す (60分)</p>		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			

<p>評価の方法・割合 (%)</p>	<p>確認テスト1 15% ※第6回に実施 第1回～第5回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標1と2の達成状況を評価するものです。15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>確認テスト2 15% ※第10回に実施 第7回～第9回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標3と4の達成状況を評価するものです。15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>確認テスト3 15% ※第15回に実施 第11回～第14回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標5と6の達成状況を評価するものです。15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>学期末試験 55% 全15回の授業が終了後、試験期間において実施します 到達目標1～6の達成状況を評価するものです。 穴埋め、記述、○×等の形式で出題します。 採点結果を確認したい場合は、チャット等で個別に連絡してください。 授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p>
<p>履修上の注意事項</p>	<p>成績評価が60%に満たない場合は再試験の対象とします。 授業資料はTeamsで共有します。 第3回と第7回、第12回の授業では、各自でパソコンを持参することが望ましいです。 確認テストの際は、解答後に各自で答案用紙を写真に撮ってもらうので、スマートフォンを持参してください。</p>

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/26		1. オリエンテーション a. 科目の内容について b. 情報技術が活用されている場面 c. 情報技術について学ぶ意義	
2	10/3		2. 基礎理論 a. 二進数とその用途 b. 二進数による文字表現と文字コード c. 情報量の表し方(ビット、バイト等)	
3	10/10		3. コンピュータの構成要素 a. コンピュータの基本的な構成と役割 b. プロセッサの仕組み c. メモリの種類と特徴 d. 記憶媒体の種類と特徴 e. 入出力インターフェースの種類と特徴	
4	10/17		4. システムの構成要素 a. システムとは何か b. クライアントサーバシステム c. 仮想化システム d. Webシステム e. システムの性能、信頼性、経済性	
5	10/24		5. ソフトウェア a. OSの機能、特徴 b. ファイル管理の考え方 c. ソフトウェアパッケージ(オフィススイートなど) d. オープンソースソフトウェア	
6	10/31		6. 確認テスト1 a. 確認テスト1の実施 b. 確認テスト1の解説	
7	11/7		7. 情報デザイン a. インタフェース設計 b. Webデザイン c. ユニバーサルデザイン	

8	11/14	8. 情報メディア a. 二進数による画像、音声、動画の表現 b. 符号化の種類と特徴(JPEG、MPEG、MP3など) c. AR、VR d. 情報の圧縮と伸長	
9	11/21	9. データベース a. データベースの意義 b. データベース管理システム c. データ分析、データベース設計、データモデル d. データベースからのデータの抽出 e. トランザクション処理(排他制御、障害回復など)	
10	11/28	10. 確認テスト2 a. 確認テスト2の実施 b. 確認テスト2の解説	
11	12/5	11. ネットワーク(1) a. 通信プロトコルの必要性 b. 代表的な通信プロトコル c. IPアドレスの仕組み d. インターネットの特徴と基本的な仕組み e. 電子メール、インターネットサービスの特徴	
12	12/12	12. ネットワーク (2) a. 通信プロトコルの必要性 b. 代表的な通信プロトコル c. IPアドレスの仕組み d. インターネットの特徴と基本的な仕組み e. 電子メール、インターネットサービスの特徴	
13	12/19	13. 情報セキュリティ (1) a. 情報セキュリティの基本的な考え方 b. 様々な攻撃手法と事例、対策 c. 物理的・人的セキュリティ対策 (入退室管理、情報セキュリティ教育など)	
14	1/9	14. 情報セキュリティ (2) a. 技術的セキュリティ対策 (アクセス制御、SSL/TLSなど) b. 認証技術の種類と特徴 (ID・パスワード、デジタル署名、生体認証など) c. 暗号技術の仕組みと特徴 (共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式、ハイブリッド暗号方式、公開鍵基盤 (PKI) など)	
15	1/23	15. 確認テスト3 a. 確認テスト3の実施 b. 確認テスト3の解説	
期末試験			
使用テキスト		特になし	
参考文献 参考URL			
備考		オフィスアワーは授業の初回で説明します。 適宜チャット等で質問していただいてもかまいません。	

開講大学 青森中央短期大学

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「共生社会と聴覚障害(手話)」	担当者名	浅利 義弘
授業の概要	聴覚障害、ろう者の生活及び関連する制度についての理解と認識を深めるとともに、障害者権利条約及び障害者基本法による「手話言語」に規定された手話の歴史及び特徴を理解し、手話で日常生活を行うことに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を説明できる。</li> <li>・手話の歴史、手話の地域性、個人性等について説明できる。</li> <li>・相手の簡単な手話が理解でき、手話あいさつ、自己紹介程度の会話ができる。</li> <li>・手話の基本文法を学び、相手の手話ができ、特定の聴覚障害者とならば日常会話を手話でできる。</li> </ul>		
授業時間外活動	予習：自己表現・会話をするための手話を1つ以上覚えてきてください。(30分) 復習：手話の反復だけでなく、歴史や背景を今一度振り返ってみてください。(30分)		
フィードバックの方法	レポート課題はコメントをつけて後日返却する		
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	手話でのコミュニケーション能力評価（手話による応答） 60% レポート 30% 受講態度 10%		
履修上の注意事項	ろう者のため、手話によるコミュニケーションにてお願いします。レポート課題はコメントをつけて後日返却する。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/26		第1回 「聴覚障害と社会環境」 挨拶等表現の基礎	
2	10/3		第2回 「ろう者のコミュニケーション手段とその特徴」 自己表現①	
3	10/10		第3回 「障がいと社会環境」 自己表現②	
4	10/17		第4回 「ろう者の歴史」 自己表現③	
5	10/24		第5回 「ろう者のくらし」 自己表現のまとめ	
6	10/31		第6回 「ろう者関連福祉制度」 対話の基礎①	
7	11/7		第7回 「ろう者のスポーツ活動とデフリンピック」 対話の基礎②	
8	11/14		第8回 「ろう者の社会環境」 対話の基礎③	
9	11/21		第9回 「手話の歴史」 対話の基礎のまとめ	
10	11/28		第10回 「手話の特徴」 会話の基礎①	
11	12/5		第11回 「手話の仕組みと働き」 会話の基礎②	
12	12/12		第12回 「手話にかかわる法律」 会話の基礎③	
13	12/19		第13回 「手話と社会」 会話のまとめ①	
14	1/9		第14回 「手話の世界・国際手話」 会話のまとめ②	
15	1/23		第15回 「総まとめ」	
期末試験				

使用テキスト	授業内で資料配布
参考文献 参考URL	

備考

ろう者のため、手話によるコミュニケーションにてお願いします。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「人間と生涯学習」	担当者名	成田 昌造
授業の概要	受講者の主体的な学習活動を期待してアクティブ・ラーニング型の学習形態を活用しながら、生涯学習の意義と領域、生涯学習を支える行政のしくみ、生涯各期の学習課題や学習を支える施設とその形態・方法並びに学習支援の方法、さらには生涯学習の評価とその活用等について幅広く学ぶ。		
科目の到達目標	(1) 生涯学習に関する基本的な知識を習得し、具体的に説明できる。 (2) 課題解決のための方策を考え、プレゼンテーションすることができる。 (3) 学校教育並びに社会教育という教育の二つの領域に関する理解を深め、生涯学習との関係性を説明できる。 (4) 現代社会の諸問題を挙げて、その解決のための事業を企画してプレゼンテーションできる。		
授業時間外活動	人のグループでラベルワーク等の作業後、プレゼンテーションの準備のために授業時間外で取り組むことも		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	<b>【評価基準】</b> ●生涯学習の課題解決のための方策を具体的に発表できる。 ●学校教育、社会教育について説明でき、生涯学習との関係性を説明できる。 ●現代社会の諸問題を挙げて、その解決のための事業を企画できる。		
評価の方法・割合(%)	<b>【成績評価の方法】</b> ○学期末試験 60% ○学習意欲(提出物5回・質疑応答等) 30% ○グループワーク等での活動状況 10%		
履修上の注意事項	出来るだけ授業を休まないようにしてください。やむを得ず欠席した場合には、自宅等で課題に取り組み、成果を提出することになります。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/26		第1回 オリエンテーション ①授業の概要と目的 ②授業の到達目標 ③授業の計画と予習・復習等 ④成績評価の方法 ⑤図書館司書の資格取得 第1章 生涯学習とは何か(その1) 1. 「生涯にわたる学習」としての生涯学習 2. 国際社会における議論 3. 日本での議論・政策 * 授業の中で、随時ディスカッション及びベアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.1～12を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「生涯学習の概念」を、発表できるようにすること。(30分)	
2	10/3		第2回 第1章 生涯学習とは何か(その2) 4. 生涯学習を巡る今後の課題 (コラム)EUの生涯学習政策と生涯スポーツについて 第2章 生涯学習の理念と理論(その1) 1. ユネスコとOECD 2. アンドラゴジーの誕生 * 授業の中で、随時ディスカッション及びベアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.12～22を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「現代的課題」(公共的課題)について、ノートにまとめておくこと。(30分)	

3	10/10	<p>第3回 (コラム)「EUの生涯学習政策と生涯スポーツ」に関して、提出された課題文について解説する。</p> <p>第2章 生涯学習の理念と理論(その2)</p> <p>3. 自己決定性という性質 4. 自己決定型学習から意識変容型の学習へ</p> <p>5. オルタナティブな学習理論 (コラム)高齢者と学習社会 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.22～32を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：「生涯教育の理念」についてまとめ、自らの言葉で説明できるようにすること。(30分)</p>	
4	10/17	<p>第4回 第3章 生涯学習の内容と方法(その1)</p> <p>1. 生涯学習の内容 2. 生涯学習の形態 3. 大学などの教育機能の開放 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.33～42を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：生涯学習の内容と形態について、自らの言葉で説明できるようにすること。(30分)</p>	
5	10/24	<p>第5回 第3章 生涯学習の内容と方法(その2)</p> <p>4. 民間組織の台頭と情報社会がもたらす影響 (コラム)PISAとPIAAC、市民大学、NPOとボランティア * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.42～48を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：「生涯学習の振興法」について、メモを見ながら説明できるようにしておくこと。(30分)</p>	
6	10/31	<p>第6回 (コラム)「PISAとPIAAC、市民大学、NPOとボランティア」の、提出された課題文について解説する。</p> <p>第4章 学校教育と生涯学習(その1)</p> <p>1. 生涯学習からみた学校教育の位置づけ 2. 生涯学習の基礎を培う学校教育</p> <p>3. 学社連携～学校と社会との協働による「学び」の創造～ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.49～59を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：学校と地域社会との双方向的な支援に係る具体的な内容を発表できるようにすること。(30分)</p>	
7	11/7	<p>第7回 第4章 学校教育と生涯学習(その1)</p> <p>4. 開かれが学校づくりの実際～子どもを支える住民の学びの実践～(コラム)キャリア教育とインターンシップ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.59～64を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：コミュニティスクールについて、具体的に内容を発表できるようにすること。(30分)</p>	
8	11/14	<p>第8回 (コラム)「キャリア教育とインターンシップ」について、提出された課題文の解説。</p> <p>第5章 社会教育の制度(その1)</p> <p>1. 社会教育とは何か 2. 社会教育の施設 3. 社会教育を支える人々 4. 社会教育の計画と評価 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。</p> <p>●予習の内容及び方法：テキストPP.65～84を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分)</p> <p>●復習の内容及び方法：「社会教育とは何か」について、具体的に内容を発表できるようにすること。(30分)</p>	

9	11/21	<p>第9回 (コラム)アジアのコミュニティ学習センター(CLC)と東日本大震災と社会教育 第5章 社会教育の制度(その2) 第6章 生涯学習支援の動向と課題(その1) 1. 生涯学習支援におけるネットワークの必要性 2. 民間との連携・協力 3. 学習情報提供・学習相談 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ● 予習の内容及び方法：テキストPP.85～95を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ● 復習の内容及び方法：「生涯学習支援の動向」について、メモを見ながら説明できるようにしておくこと。(30分)</p>	
10	11/28	<p>第10回 (コラム)「アジアのコミュニティ学習センター(CLC)と東日本大震災と社会教育」の課題文の解説。 第6章 生涯学習支援の動向と課題(その2) 4. 生涯学習支援の課題～新しいネットワーク構築へ～ (コラム)企業の社会的貢献 第7章 まちづくりと生涯学習(その1) 1. まちづくりの諸形態と生涯学習の位置づけ 2. 生涯学習まちづくり～生涯学習まちづくりという用語の捉え方～ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ● 予習の内容及び方法：テキストPP.95～103を読んで、メモを見ながら説明できるようにしておくこと。(30分) ● 復習の内容及び方法：「企業の社会的貢献」について、具体的に内容を発表できるようにすること。(30分)</p>	
11	12/5	<p>第11回 (コラム)「企業の社会的貢献」に関わる課題文の解説。 第7章 まちづくりと生涯学習(その2) 3. 住民参加の概念と実際 4. 地域を創造する住民の学び *【演習】まちづくりについて考える(グループワーク形式) ● 予習の内容及び方法：テキストPP.103～110を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ● 復習の内容及び方法：本時のグループワークを振り返り、自分の考えを整理しノートにまとめる。(40分)</p>	
12	12/12	<p>第12回 第7章 まちづくりと生涯学習(その3) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループで討議する。 ● 予習の内容及び方法：まちづくりについて、自分の考えをまとめる。(30分)</p>	
13	12/19	<p>第13回 第7章 まちづくりと生涯学習(その4) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループでラベルワークに取り組み、グループの意見をまとめる。 ● 予習の内容及び方法：まちづくりについて、自分の考えを発表できるようにノートにまとめておくこと。(30分) ● 復習の内容及び方法：どんなまちを創りたいか、本時の討議を振り返り、自分の意見をノートにまとめる。(40分)</p>	
14	1/9	<p>第14回 第7章 まちづくりと生涯学習(その5) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループでまとめたことをプレゼンテーションし、その後、全員で質疑応答。 第8章 グローバリゼーションと生涯学習(その1) 1. グローバリゼーションと生涯学習 2. グローバルな課題に対応する教育 ● 予習の内容及び方法：グループで討議した結果を踏まえ、まちづくりについてレポートにまとめて提出すること。 また、テキストPP.111～115を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(60分) ● 復習の内容及び方法：各グループの発表を聞いて、どんなまちを創りたいと思ったか、自分の考えをまとめておくこと。(30分) * 各グループの青森県のまちづくり案について、解説する</p>	

15	1/23	<p>第15回 第8章 グローバリゼーションと生涯学習(その2) 3. グローバリゼーション時代に生きる個人 4. 生涯学習の公共性を考える 5. 学習社会の平等と共同性 (コラム)ワークライフバランス ◎授業のまとめ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ● 予習の内容及び方法：テキストPP.115～122を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ● 復習の内容及び方法：生涯学習の公共性とはどのようなことか。説明できるようにノートにまとめる。(30分)</p>	
期末試験			
使用テキスト		テキスト『生涯学習』～学びがつむぐ新しい社会～（新訂版） 田中雅文、坂口緑他（著）	
参考文献 参考URL		授業の中で、その都度紹介する。	
備考			

開講大学 青森中央短期大学

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「生命の科学」	担当者名	佐藤 敬
授業の概要	この授業では、生命を構成する物質、細胞・組織・臓器やそれらの相互作用による生命維持の仕組みを学ぶ。また、コロナウイルス感染症を例に、人体の構造と機能について学び、さらには、医療や生命倫理についても考える。これらを通して、生命に関する理解を深め、生命の尊厳を活かすことを目的とする。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の特徴を説明できる。</li> <li>・細胞の基本構造と機能を説明できる。</li> <li>・生物の種類を説明できる。</li> <li>・人体の基本的構造と機能を説明できる。</li> <li>・免疫機構について説明できる。</li> <li>・生活習慣病と日本人の主な死因について説明できる。</li> <li>・医療倫理・生命倫理の概要を説明できる。</li> </ul>		
授業時間外活動			
フィードバックの方法	期末試験終了後、解答例をTeamsに掲載するので、間違っていた点、足りない点を必ず確認して理解を深めること		
単位認定の要件	個々の授業で実施するレポートと期末試験において、到達目標の達成度を問う。知識に加えて、生命科学の課題について自らの考えを明確に持ち、それを正確に表現できることを問う。		
評価の方法・割合(%)	期末試験80%、授業ごとのレポート20%		
履修上の注意事項	授業への積極的な参加を望む。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/26		(テーマ) 「生命の科学」とは (授業内容) 生命の定義、生命の特徴、生命の誕生など、「生命の科学」が扱う生命の基本 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
2	10/3		(テーマ) 生物の基本単位・細胞 (授業内容) 細胞の構造と細胞内小器官の役割、細胞膜の機能 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
3	10/10		(テーマ) 生物を構成する物質 (授業内容) タンパク質、脂質、糖質、核酸などの生体物質 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
4	10/17		(テーマ) 生物の種類 (授業内容) 生物の分類と種々の生物の大まかな特徴 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
5	10/24		(テーマ) 遺伝と遺伝情報 (授業内容) 遺伝子と遺伝情報の伝達機構 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	

6	10/31	(テーマ) 生殖・発生と分化 (授業内容) 生物種の維持の機構と個体の成熟過程 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
7	11/7	(テーマ) 生物と進化 (授業内容) 生物の進化の過程 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
8	11/14	(テーマ) 先端バイオ技術と社会 (授業内容) 遺伝子操作、遺伝子改変生物と社会に対する影響 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
9	11/21	(テーマ) 臓器・組織の基本 (授業内容) 細胞や生体物質からなる臓器や組織の基本構造 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
10	11/28	(テーマ) 摂食と睡眠の科学 (授業内容) 摂食と睡眠を中心に、行動のメカニズムを学ぶ (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
11	12/5	(テーマ) 腎不全医療 入門 (授業内容) 腎不全の基本的知識と腎不全医療の現状を学ぶ 青森県腎臓バンクによる出前講座 (予習) 第9回の授業「臓器・組織の基本」を復習する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
12	12/12	(テーマ) 感染症と免疫 (授業内容) 新型コロナウイルス感染症を例に感染免疫について学ぶ (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
13	12/19	(テーマ) 疾病と医療 (授業内容) 日本人の主な死因と生活習慣病 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
14	1/9	(テーマ) 人体への放射線の影響 (授業内容) 放射線とは？放射線の作用と人体への影響(日本原燃からのゲストスピーカーによる講義、実験を中心に行う) (予習) 放射線、放射性物質、放射能それぞれの意味と、放射線の種類や特徴について予習する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料と講義ノートを用いて、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
15	1/26	(テーマ) 医療と生命倫理 (授業内容) 生命倫理・医療倫理の基本 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 配布資料やオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
期末試験			
使用テキスト		なし	

参考文献 参考URL	・田村隆明(著) コア講義 生物学、裳華房 ・石川統(編) 生物学入門、東京化学同人 ・塩田浩平(編) 人体の構造と機能、中山書店 ・小林亜津子(著) 看護のための生命倫理、ナカニシヤ出版
備考	